

02 February

Monthly Report: BESIGN The Sustainable Design School, France



↑ミモザフェスティバルにて、ありったけのミモザ。私も沢山持ち帰りました。

帰国してから二週間が経ちました。フランスでの日々はまるで夢であったかのように、日本の生活にわたしがどんどん溶けていく感覚があります。些細なことを忘れていくのが恐くて、街の匂い、通学路の様子、友達のこと、思いつくいろいろなことをノートに書き残してみました。

この留学を通してわたしは多くのことを学び、かけがえのない思い出を作ることができました。特に密かな目標であった「留学先で出会った人と空港で涙の別れをする」を達成することができたので大いに満足しています。

留学のまとめ

本来は2月の初めまで授業がある予定でしたが、私が所属していたプロジェクトは早めに終わり、1月の間に私の授業はすべて終了しました。そして、なんとかすべての単位を取得することができました。帰国するまではマントンまで遠出を試みたり、スケボーをしたり、友達といろいろなご飯を食べたりと、毎日遊んで過ごしていました。帰国後は一気に変化する自身の環境についていけず、一週間ほど気分が落ち込んでいたのですが、だんだんと回復していきました。人の順応力を感じています。

さて、今回はこれが最後のレポートとなりますので、私の留学生生活を簡単にまとめていきたいと思います。

・多国籍の環境に身を置くこと

私が留学してよかったことを挙げるとするならば、これが一番出てくるでしょう。私の通っていた BESIGN スクールは、フランス国内外から多くの生徒が集まる学校でした。私の周りにはフランス、インド、ドイツ、ネパールなど、さまざまな国籍の友人がいました。そしてロシア、ウクライナ、アメリカ、イランの友達もいます。

特に留学後半では、イランのクラスメイトが泣いている姿を見かけたり、世界で起きている争いについて生徒同士が会話をしたりすることが多くありました。多方面からの意見を聞くのはとても貴重な機会でした。普段から世界情勢について積極的に知ろうとしていたつもりではありましたが、より一層考えるようになったと思います。世界を知ること、自分の意思を持つことは、私の明日を自分自身で創るために必要なことだと、改めて深く考えました。

・ニース

自分が住んでいたレジデンスから電車で9分かけニースの街中へ行くことができます。日本の恋愛リアリティーショーの舞台にもなったことから、長期休暇の時期には多くの日本人観光客を見かけることもありました。年中気候が温暖なので、いつでも海岸は散歩をする人で溢れています。私は二週に一度ほどの高い頻度で街中に出かけていました。内側には小さなお店が並び、外側には綺麗な海が広がっている、私の好きな街です。

ゆっくり過ごすのもよし、買い物を楽しむのもよし、食を楽しむのもよし。ヨーロッパに行く予定があったら、ニースに寄ってみることをおすすめします。

・一人で異国の地で過ごしてみた感想

個人的には、今回の留学で人生初めての一人暮らしをすることになりました。フランス到着後すぐに高熱を出したり、入居説明がほとんど理解できず電気が早々に止まったりと、出鼻をくじかれるようなスタートでしたが、結果的には一人で暮らすのはとても楽しかったです。特に料理をするのが好きで、よく一人で「美味しい」と言いながら食べていました。生活においても学校の友達の存在は大きく、同じアパートに住んでいる友人と調味料を貸し借りしたり、トラブルの時には助けてもらったり、友人の家に泊まることで生活の知恵を教えてもらったりしていました。部屋が散らかったり、洗濯機を回すのを怠って翌日着る服がなくなったりすることもありましたが、私は完璧主義とは真逆の性格なので、その点は自分の性格に助けられました。

食料品や生活用品をよく買いに行っていたのですが、何度かお会計を間違えられたことがあります。気づいた時は返金対応をしてもらっていましたが、そのような点から、私が住んでいた地域は少しゆるい雰囲気があると感じました。少し面倒だとは思いましたが、私自身もゆるい性格なのであまり苦にはなりません。しかし、人によっては大変に感じるだろうなとも思います。

そんな私が一番苦しく感じたのは物価です。ほとんどのものが日本の二倍以上の値段で売られています。そして私が留学している間に、1ユーロ168円だったものが最後には183円ほどまで上がってしまいました。ある日、靴を買おうとショッピングモールに行ったのですが、50%オフのセール品でさえ日本で買った方が安いことに気づき、結局何も買えませんでした。若者が多く集まるバブで飲んだマリブコークが1800円以上した時には、とても困惑しました。

・授業での失態

英語力が十分でないまま日本を飛び出してきてしまったので（正直に言うと、出国前は謎の自信がありました）、授業で困ることは数多くありました。特に入学直後の演技の授業での私はひどいものでした。先生が指定した役に沿って即興で演技をする授業内容だったのですが、当時の私は「Dead（死んだ）」と「Dad（父親）」を聞き間違え、死人の役を演じなければならないところで父親を演じてしまい、床に倒れるべきだったのにタバコをふかす演技をしてしまいました（最悪なステレオタイプ）。当時はクラスメイト全員を混乱させ、誰一人として笑うこともなく、地獄のような空気を作り上げてしまったと思います。他にも授業についていけず音楽室に逃げ込んだり、先生と絵で会話をしたりと、いろいろなことがありました。そんな中でも、異国の友達と二人きりで積極的に遊ぶなど、語学力が理由でいろいろな経験を手放さないようにしました。そして、日本から来た後輩をはじめとする友達たちの助けもあり、なんとか一人でのプレゼンを二回乗り切りました。留学後半には多くの人が「英語がとても上手になった」と声をかけてくれ、とても嬉しかったです。

このように振り返ってみると、生活でも授業でも休日でも、友達の影響はとても大きく、私の留学生活に多くの素晴らしい影響を与えてくれたと思います。そして、日本にいる友人も電話やメッセージを通して私を強く支えてくれていました。自分は一人で生きられると思っていたのですが、全くそんなことはなかったようです。それに気づくことができた留学生活でした。

また、ここには書くことができないような出来事もたくさんあります。留学に興味がある方は、ぜひ私を見つけて直接聞いてみてください。

